

文化行政をめぐる課題

- 少子・高齢化や過疎化等を踏まえた、次世代を担う人づくりによる地域が大切にしてきた豊かな生活文化や伝統文化などの継承
- 伝統文化から、食文化やメディア芸術などに至るまで、多様な文化を幅広く捉え、次世代に継承する新しい文化を創造
- これまでの取り組みを踏まえた、文化の社会的・経済的価値の創出と様々な分野での活用による、持続的な地域の活性化を実現

目指すべき姿(社会のイメージ)

- I. 日々の暮らしの中に多様な文化が共生し、感性豊かな生活が営まれている
- II. これまで受け継いできた文化が大切に守られ、次世代に継承されている
- III. 誰もが個性を発揮し、多様な文化が交流し、文化と先端技術の融合により、文化の創造が活発に行われている
- IV. 文化が様々な分野で活かされ、地域や産業が元気になっている(文化GDPの拡大)

基本戦略(事業体系)～文化による心豊かな社会の形成に向けて～

日本文化を守り次世代につなぐ 「人づくり」

ほんまもんが更に発展し 新たな文化を育む 「多様な文化創造」

- 文化芸術と先端技術との連携・融合などを推進する基盤づくり
- 障害のある人の文化芸術活動の推進
- 文化プロジェクト2016-2020による新しい文化の創造と発信
- 新たな文化創造の基盤となるアーカイブの推進
- 古典や民話を通じた日本の伝統的文化の振興
- 文化を幅広く捉え、多様な文化の交流による新たな文化創造の取り組み など

- 学校・家庭・地域の連携による、幼児から保護者までを対象にした多様な文化体験事業の実施
- 美術館・博物館等を活用した体験学習の実施
- 若手芸術家やクリエイター等の育成
- 芸術村づくりやどこでもギャラリーによる若手芸術家の創作環境や発表の場の拡大
- 府立大学「和食文化学科」設置等による和食文化人材の育成
- アートフェアなどを通じたアート市場づくり
- 道具や材料、技術の継承も含めた伝統文化、伝統産業の人材育成 など

文化の保存・継承・創造と、その価値の活用が持続的に循環する 「地域づくり」

- もうひとつの京都(海・森・お茶の京都、竹の里・乙訓)による地域文化資源を活かした観光・地域振興や、地域の関係者等が連携する基盤づくり
- 国際的な芸術祭の開催
- 和食や、映画、ゲーム、アニメ等のコンテンツ産業の振興
- 伝統産業の新市場開拓
- 文化ベンチャーへの投資促進など支援制度の検討
- 日本遺産や史跡・文化財等の観光等への活用
- 暫定登録文化財制度による文化財保存の推進 など

新たな文化創造と、文化の幅広い活用により、地域や産業を元気に

府民の文化活動を支援し、発展させる推進体制 「基盤づくり」

- 地域文化振興のための専門人材の確保
- 文化政策のシンクタンク機能の検討
- 文化施設のバリアフリー化、多言語化対応の推進
- 北山文化環境ゾーン等の基盤整備
- 企業や海外等からの寄附のしくみの検討
- 文化庁、関西広域連合等との連携 など

推進体制等

- 有識者による審議会の条例設置
- 数値目標 (KPI) の設定と定期的点検 など